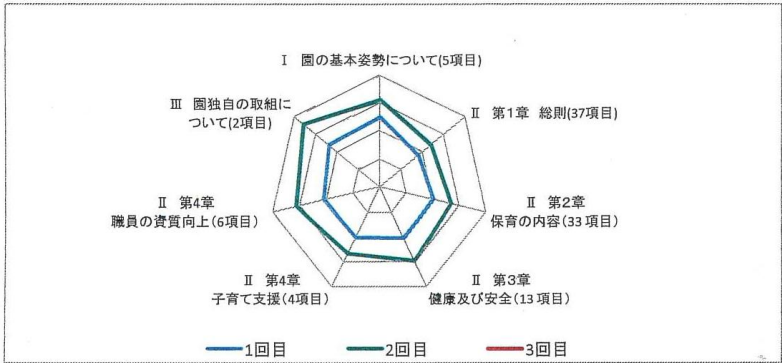


＜評価方法＞
十分理解できている(十分にできている)…◎3点 理解している(できている)…○2点 ふつう…▲1点 努力が必要…×0点

集計結果（チェック3回分）

	回答人数 入力してください	7人											
評 価		1回目				2回目				3回目			
		◎	○	▲	×	◎	○	▲	×	◎	○	▲	×
I 園の基本姿勢について(5項目)		3	17	9	1	8	14	13	0	0	0	0	0
II 第1章 総則(37項目)		3	67	137	15	6	108	136	9	0	0	0	0
第2章 保育の内容(33 項目)		3	89	93	13	3	78	76	4	0	0	0	0
第3章 健康及び安全(13 項目)		3	32	38	6	10	50	31	0	0	0	0	0
第4章 子育て支援(4項目)		0	10	14	0	2	13	13	0	0	0	0	0
第5章 職員の資質向上(6項目)		0	19	15	2	1	20	21	0	0	0	0	0
III 園独自の取組について(2項目)		0	8	4	0	2	12	0	0	0	0	0	0

レーダー



項目別の評価と改善策

I 園の基本姿勢について

・令和6年度は1歳と2歳の人数が4月から安定してきている為1名職員を採用し、各クラス2名の職員配置にした。ひとり一人の人格を尊重すべき保育の仕方を模索しながら、当園の保育について語り合うことができてきた。

II 保育所保育指針

第1章 総則

- ・保育所の役割として、子どもの最善の利益を守るため家庭と連携を取り、安心できる園を目指した。
- ・保育計画はICTを活用し自園の保育内容に適したものに書式を作成し定着してきた。
- ・0歳から2歳のまだまだ人の手が必要な子どもたちの健康・情緒の面では、家庭環境も大きく個別の対応が特に必要だった。

第2章 保育の内容

- ・1.2歳の人数が安定し、クラスごとで行う活動も増えた。情緒が不安定だったり集団での活動が難しい児には、職員が1人付き対応するなど臨機応変な保育も行ってきた。
- ・児の気持ちをしっかり受け止め、尊重できる対応を心がけ、少しでも自分で決めるという行動ができるように声掛けなど工夫した。
- ・朝の会を必ず行わなくてもよい、給食は皆がそろってから食べなくても良い等待たせる保育から少しでも脱却できる取り組みを行ってきた。

おやつを飲んだら遊びに出かけ、給食ができたら、部屋に入り準備出来た子から食べ始める等、子どもの意

欲的な行動を見ることができた。

第3章 健康及び安全

・感染症（コロナ・インフルエンザ等）においては、園内の感染を防ぐ為、保護者には協力を呼び掛けた。中には理解を得られない家庭もあったが、お休みをしていただいたことで、広がりを防ぐことができた。家庭に支援も必要ではあるが集団での園生活も守るべきだという判断をさせていただいた。

・アレルギー児が1名在籍しているが、なるべく同じ食材を提供する為、卵黄、卵白を使用していないものを食材に選んだ。卵のみを使用するものを少なくし、みんなと同じものが食べられる献立にするように工夫した。

・避難訓練は毎月行っているが想定外の訓練も入れていきたい。2024年8月には「南海トラフ地震情報」が出され、困惑したが園の防災について見直し、防災食の準備も進めた。次年度も引き続き補給していく予定。

・今年度3月に胃腸炎からの痙攣をおこした園児がおり、救急車を呼ぶということがあった。土曜日だったが出勤していた職員はしっかりと対応していた。保護者もまだいたので一緒に状況を救急隊に話すことができた。（昨年度の教訓を生かし様子を動画で撮影し救急隊に見せることもできた）

第4章 子育て支援

・毎日お子さんを預かる中で各家庭の状況が見えてくるので、保護者に声をかけ、少しでも話をしてもらえよう個人面談の時間を作ったりした。また、送迎時に園での出来事を話すことで、保護者の方の笑顔が見られるのでさりげない会話を心がけていった。

・特に2歳児は4月から違う園へ通うことになるため、保護者の心配事を受け止められるよう面談を行った。連携園へは1名ずつ決まったがその他は各家庭の登園距離や保護者の働き方で決めることができた。

第5章 職員の資質向上

- ・キャリアアップ研修を受講し、対象となる職員の受講は完了することができた。（Eラーニングでの受講もあったので時間を計画的に作ることができた。）
- ・コドモンでの研修体制を作り、それぞれ学ぶことをした。共通して視聴する項目も作り共通理解もできたのだと思う。その他沼津市保育士会の研修、沼津市特別保育研究会の研修などに参加し資質の向上に努力した。また園内でも、自園の保育の仕方や方向性について、職員間でも話し合いながら進めてきた。
- ・全国保育士会のセルフチェックを行い、子どもへの声のかけ方、人権についても振り返り事故の保育を見つめ直す機会が持てた。（結果については別紙参照）
- ・園独自の取り組みとしては、家庭に寄り添い支援を行うようにし、個々に合わせた対応を心がけた。しかし、園の方針やルールを理解されないことも有ったので説明を丁寧にした。
- ・年間を通じて食育を保育の中にとりいれ、子どもたちと楽しみながら栽培やクッキングを行うことができた。

・来年に向けて・・・様々な家庭の状況で保育園を利用する家庭もあり、臨機応変な対応も必要とされる。小規模保育園としての役割を常に考え、丁寧な保育を行っていきたい。また、少子化が進む中でも選ばれる園を目指し取り組みを発信していきたい。

気候変化が今までと違うため行事の在り方や、日程を検討していく。

(気づいたこと・感じたこと)

◎どの項目が特に意識が必要か気づくことができた。

◎チェックリストを実施することで、自分の足りないところ、努力すべきところが良く分かります。

昨年より意識は高くなったと思うが、まだ反省するところも多いので努力していきたい。

◎本園で二度目のセルフチェックなので、昨年の結果を踏まえ改善しようとする意識が持っていると感じる。

◎何度かセルフチェックをしたことがあるので、こんなことはいけない、こんな風に言い換えたらよい、が少しは頭に残っているので、気を付けて保育をしているが、やはり自分に余裕のない時などに子どもを尊重していない保育をしてしまっている時がある。更に気を付けて保育していかなければいけないと思った。

◎日々、子どもの人権や、保護者の状況について配慮しながら保育をしているが、セルフチェックを行うことで改めて自分の保育の見直しができる。頭ではわかっているにもかかわらず実際出来ているのか自問することは振り返りの良い機会になっている。

(●=自らの良い点 ・=自らの改善すべき点や目標)

(1)子ども一人ひとりの人格を尊重しないかかわり

○登園時の母子分離の場面では「ママがいいよね」と子どもの気持ちに寄り添いつつ抱っこするようにしている。

○出来るだけ子どもの立場に立って、気持ちに寄り添い決めつけたり、保育者の思いを強引に押し付けないように心掛けている。

○排泄の失敗時応援を呼ぶ時には声の大きさに気を付けたり、子どもに寄り添った声掛けをして着替えをするなどの対応は意識できるようになった。

○子どもの主体性を意識するようになってから、無理に何かをやらせようというスタンスではなくなった。(一斉保育の意識からの変化)

○小さくてもきちんと人格があり、話せなくてもまだ赤ちゃんのうちから話は分かっていると思って対応している。

○噛みつきがあった時、噛んでしまったことを叱ってしまい、他の子と関わりを持っている時に危ないからと、(噛んだ子が怒っている時)子ども同士を引き離して遊ばせてしまった。子どもがイライラしていたら早めに対処し、トラブルになる前に心を静めるようにしたい。

・排泄を失敗した際や漏れて衣服が濡れてしまったときに、つい回りの保育士に「もれちゃってます。」「ぬれてる」等大きな声で伝えてしまうことがあるので、気を付けたい。

・出来るだけ耳を傾けようとしているが、どうしてもの時には「ちょっと待っててね。今大事なお話し中だから」と言って後で聞くようにしている。

・トイレはとても悩ましい思いの中、散歩の前や午睡前後には一度座ってみた方が出るかもしれないなどと思って、声を掛けてしまっていた。習慣づけた方が良いのか、主体性や人権を重んじる所と難しい。ちょうどトイレトレーニングの時期で難しいところではあるが、人権を尊重する声掛けの仕方に注意していきたい。

・話しかけられた時に「ちょっと待っててね」と言ってしまうことがある。その後聞き直したりするように気を付けてはいるが、そのままになってしまうこともあるので、必ずフォロー出来るようにしていきたい。

・排泄を失敗してしまった子へ「出ちゃったね」とほかの子に聞こえる声で言ってしまうことがあるので気を付けたい

・排泄の失敗については攻める言葉がけはしないが、対応をその場で行ってしまったり、周囲にいる職員に声を掛けて応援を呼んでしまったりしている。

・すぐに話を聞けない時に「ちょっと待っててね」と言ってしまいが、その後に必ず「ごめんね、さっきはなんだった?」とフォローするようにしている。

・子どもに「ちょっと待っててね」と声を掛ける場面がどうしても出てきてしまう。その後は、話を聞くようにしているが、「先生に話を聞いてもらえてうれしい。また話したい。」と子どもが感じられるような対応には自信がないので、意識していきたい。

・食事の時にテーブルに給食のメニューをすべて配膳せず、順に出している時がある。食べる意欲を尊重することを考え直し、配膳できる工夫をしていく。

・「エプロンしないとご飯食べられないよ」と声を掛けてしまっている。もっと優しく「服が汚れちゃうから、エプロンしようね」などの声掛けをしていくようにする。

(2)物事を強要するようなかかわり・脅迫的な言葉がけ

○交換条件を出して交渉したりすることのないように心掛けている。

○大部分は強要や脅迫をしないで関わっている。

○「○○しないなら、○○できないよ!」は無意識に出てしまいそうになるので、気を付けている。うっかり出てしまい反省することもあるので、声掛けの引き出しを増やせるようにしたい。

○物事の強要や罰を与える関りは行っていない。

○脅しになるような言葉がけにならないように気を付け、子どもがどのようにしたらやる気になるか、どんな言葉がけをしたら納得するか、など考えながら関わるようにしている。

○「そんなときもあるよね。」とまずは認めるようにしている。

・「○○しないなら、○○しないからね。」とは言っていないが、頭の中でこういうことを言うてはいけないと分かっているのに、自分の声掛けや誘導が上手に出来なくて自分の中に焦りが出てきたときに、「じゃあ、もう先生行っちゃうよ。」などと言てはいけないことを言うてしまった。すぐに反省し心の中がモヤモヤしてしまったので、もっと良い言い回しポジティブな変換が出来るように気を付けていきたい。

・午睡時話をしたり、なかなか入眠できない子を他の子から離すという事は行っている。上手く言葉がけをして落ち着くように促していきたい。

・給食をひっくり返したり、お茶をわざとこぼしたりする子に対し、大きな声でアクションしてしまい「またやったの?」と声を掛けてしまったりと、反省しています。落ち着いて冷静に対応できるように心掛けていきたい。

・なるべくポジティブな言い換えをするようにしている(「○○したら○○しよう!」など)が、時間のない時に思わず「○○できないよ～」と言ってしまったことがあるので気を付けたい。

・寝ずに話をしている周囲の睡眠の妨げになる状態で、ベットの移動し他の子どもから離して寝かせようとした。ほかの子供に迷惑であることを伝えたが理解が難しく、他児を起こしてしまったためやむをえず行ったが本児に対してもう少し移動することを、納得できるように丁寧な説明があると良かった。

(3)罰を与える・乱暴なかかわり

○午睡時は特に安心して眠れるように心掛けている。子どもが気持ちよく入眠できることを目指している。

○罰を与える・乱暴なかかわりはしないように心掛けている。なるべく手を繋いで誘導するように心掛けている。

- 子どもの体が発達段階であることを昨年より再認識し腕を引っ張ったり、乱暴な扱いにならないよう気を付けている。
- 手が抜けやすいことに気を付けている。

- ・罰を与えたり、乱暴なかかわりはしていないつもりではあるが、すごく気を付けて頭を触って人数確認をしたときに「痛い」という子がいてドキッとした。置いただけでも痛いと感じたり嫌がったら謝り気を付けていくことは大切だと思った。
- ・急いでいる時や集団で動くべき時に掛け声と同時に抱きかかえてしまう場面が多い、予め声掛けをしてから行動できるように改めて意識していきたい。
- ・子どもの腕をつかんで誘導する場面も多いので気を付ける。手を繋ぐなど、納得できるような言葉がけを意識したい。
- ・昨年度は腕を引っ張ってしまうことがあったので、気を付けている。
- ・夕方散歩に行く際お迎えが早い児を置いていくが、寂しそうにしていたり、保護者が迎えに来た時に「え！」となっているので、工夫が必要だと思う。
- ・散歩のときなど、誘導ロープから手を離し、列から離れていってしまう時につい腕をつかんでしまうことがある。突発的な行動で危険な場面では仕方がないこともあると思うが、そのような行動になる前に対応できるよう十分に注意し、どうしても時には怪我のないように気を付けていきたい。
- ・午睡前にトントンしている時に起き上がろうとしている子に対し、無理に寝かしてしまっていた。一人ひとり個々の寝かしつけ方を見つけ気持ちよく入眠できるようにしてあげたい。

(4)一人ひとりの子どもの育ちや家庭環境を考慮しないかかわり

- 一人ひとりの子どもの状況家庭環境を理解し個々に合わせて対応するように心掛けている。
- 各家庭の環境や保護者の特徴を理解して、各子どもに必要な援助や言葉がけをしている。
- なるべく保護者の気持ちに寄り添えるように努力している。難しい時には、他の職員に相談してアドバイスをもらうようにしている。
- 家庭の状況(母の体調が悪いから… 仕事が忙しいから…)を考え、洗濯が回らない、貸してほしい等受け入れるようにしている。(それが良いのかと疑問になることもあるが)
- 自分が反対の立場だったら、こんな風に言われたらどうかな？と常に考えながら接している。
- 常に子どもにとって良くなるように、家庭環境を配慮し考えながら保育をしている。

- ・職員間で話をする時にも、2, 3歳になると何を話しているんだろうと、話を聞いている子もいるのでなるべく子どもの側では話さないなどの配慮が必要だと感じているが、ポロっと言うってしまうこともあると思うので気を付けたい。
- ・いつも決まって降園ぎりぎりの子の家庭について、子どもの聞こえる声の大きさに「今日も19時すぎるかな」等話してしまっているなので、気を付けたい。
- ・子どもに入っていないが、職員同士で家庭や保護者のことを話してしまうことがあるので気を付けたい。
- ・子どもの前で保護者の話をしないように心掛けてはいるが、約束が守れない、連絡をくれない、遅刻ばかりの保護者の話を子どもたちの居る所で、職員間で話してしまった。
- ・保護者対応も大切なことなので、言葉がけやかかわりも密にして信頼関係を築いていけるようにしたい。
- ・子どもや保護者に直接伝えることはしていないが、保育士同士で話をしてしまうことがある。その時も相手の都合(事情)なども考えながら話をし相手にも気を付けてもらいたいことがあったら改善できるような対応が考えられるといいと思う。

(5)差別的なかかわり

- 男だから女だからなど性差に繋がるような発言のないように心掛けている。男の子と、女の子とに分けるような場面もないように心掛けている。
- 一人ひとりに分け隔てなく関わるようにしている。色を選ぶときなどに男女差別のないようにしている。
- 一人ひとり平等に接するようにしている。
- クラスの一員、園全体の一員として、みなに平等に挨拶をするように心掛けている。

- ・差別的なかかわりはしていないが、寝かしつけの時に情緒不安定で、他の先生が良いという時には、その方が落ち着くならと変わってもらったり、待つようにと、離れたりしている。もっと子どもたちとの間に信頼関係を築き、自分でも安心して寝付けるような関わりを心掛けていく。
- ・差別がないように意識しているが、発達段階が違う子に対し皆と同じことを求めてしまうことがある。個々の成長をじっくり見守る心を意識したい。
- ・牛乳が苦手な児に、少しでも完飲して喜びを感じられるように、どうせ残してしまうのなら…と思い、減らしてたくさん飲みたい子にあげていた。このチェックをしてからは「少なくする？」と聞くようにしている。
- ・寝かしつけの時など、そのつもりはなくても子どもからしたら「いつも、あの子ばかりずるい」と思われてしまう可能性もあると思った。
- ・男の子だから青、女の子だからピンクなど、制作をする中で決めてしまう時があったので、性差別になってしまうので気を付けたい。
- ・発表会の衣装を決める際に、男の子だから青かな？と決めてしまった。0歳児クラスで好みも言えないからと決めてしまったが、もっと違う決め方もあったのかも。いろいろな決め方を考えていきたい。

特に見直し・改善が必要な項目

- R 7・1/17(金) ・職員会議にて振り返りを行う。
- ・見直し改善が必要な項目(複数＝2名以上のチェックが付いた項目)について読み合わせを行い、意見交換をする。
- ・戸惑う場面や気になっていること、についても話し合う。

(1)－3 …2名

- ・排泄の失敗への対応をその場で行ったり、周囲に知らせたり、その失敗を責める言葉をする。失敗を責めるようなことは無いが、保育室などで失敗した時にその子の着替えだけでなく、その場の消毒も必要になる。その場で他児が踏んでしまわないようにするためにも他職員へも知らせる必要がある。そのような理由から、ここで言う良くないかかわりの「周囲に知らせる」ことをせずに処理することは難しい。
- 登園では、子どもの気持ちに配慮しつつ、近くの職員に「ここをお願いしまーす。」などと声を掛け応援を頼むようにする。その場から子どもをトイレに連れていき着替えを行うようにする。

(1)－5 …4名

- ・子どもが保育者に話しかけた際、「今忙しいから後にして」と言う。「ちょっと待っててね。」と言ってしまう場面は意外に多く、後で聞くようにはしているが心苦しく思うという意見が多かった。場面によっては手が離せずやむを得ないこともあるので、今対応できない理由を子どもに丁寧に伝えたり、「〇〇が終わったら教えてね。」など待つときの見通しがつくような言葉がけを心掛けるようにしていく。

(2)ー1 …4名

- ・集団行動をするための言葉がけをした際、言葉がけを聞かない子どもに「○○しないなら○○できないからね」と言葉をかける。

良くない言葉がけであることは理解しているが、言いそうになったり、余裕のない時に言ってしまったことがあるとの意見がでた。前向きな言葉がけを探して「片づけをして、次は○○をしよう！」などと声を掛け誘うとやる気になってくれることもあるが、上手く誘えないこともある。特にイヤイヤ期の子どもを誘うのは難しく言葉がけに悩むこともある。やってほしいことを分かりやすく伝える事、「手伝ってくれる？」とお願いしてみるなどの工夫をしてみる。また、どうしたいのか、何が嫌なのか聞いてみる。

(3)ー2 …3名

- ・並ぶ時などに、子どもの自発的行動を待てず、腕をつかんで引っ張る。

脱臼などの恐れを意識しながらも、とっさに止めたい時などに腕をつかんでしまうことがあった。

誘導する際は、職員が下から手を出し誘うようにしてから引っ張る行為がなくなっていると感じる。移動を誘う際にはその方法で行うと良い。

【その他に戸惑う場面や気になっていること。】

- ・散歩に出かける際の対応について

散歩に出かけるときに行きたがらない子の対応で困ることがある。集団を長い間待たせてしまうし早くいかせようという気持ちが高まり、職員も子どもも余裕がなくなってしまうことがある。

集団に付く職員と、個に付く職員と連携して、落ち着いたら後から来るように声を掛けて出発してもよいことにする。先に出発する際に「待ってるねー」「来てねー」と声を掛けたり、後から来た合流時に「待ってたよ！」「一緒にいこう」と声を掛ける等の配慮をする。

- ・午睡時に「トントンして」と言われて心苦しく思うが、不安定な子の対応に手を取られてほかの子に手が回らない時がある。手の空いている職員が対応してくれているが、直接関わってあげられない。

他の職員にもお願いするが「トントンしに行くからね」と声を掛けつつ、「おやすみなさい」のハグなどのスキンシップを取るようにしてみる。

- ・散歩前や午睡前などにトイレに誘っている。「いかない」と言っても何度か誘うことがある。それは良いのか？迷いつつトイレトレーニング中の布パンツの子には誘ってしまっている。

誘うことはしても良いが無理強いしない程度にして、「いかない」の理由が遊びの途中でやめたくない等の尿意と関係ないことであれば切り替えてから誘うなどしてみる。失敗してもよいという気持ちで着替えなどの準備もして出かけるようにする。間隔が空いていない場合は紙パンツに戻すなどの対応も必要。

散歩先で失敗してから散歩に行く前の誘いを素直に受け入れるようになった子もいるので、そんな経験も心配せずに、もしもの時の対応ができるようにしておく。

- ・午睡の入眠時に大きな声を出してしまう子を隅の方に寝かせていることについて

他児が気になって眠れない事と、他児の迷惑になることが理解できる発達にない事、本児がそのことについて嫌がる様子はない事などから今の対応をしていく。大きな声を出さずに入眠できる方法も探していくようにする。